ここばりこまきの１０年を振り返って

ここばりこまきは、2008年4月に、こころのバリアフリーを進めることを目的にスタートしました。

おかげさまで、１０年間、活動を継続することができました。

その１０年間を、過去のチラシや写真などから、活動を振り返ります。

それぞれのイベントに参加いただいたみなさまが、私たちの応援となり、またひとつ先の活動へと支えていただいたのだと考えています。

私たちの活動に関わってくださったみなさま、ひとり一人に感謝申しあげます。

２００７年度

２００８年２月３日（日）「こころのバリアフリー市民のつどい　in　小牧」

ここばりこまきのきっかけとなったイベント。

春日井市の特定非営利活動法人で・ら・しえんが、愛知県の心のバリアフリー推進事業を受託しました。

その事業のひとつを、小牧市内で、小牧市民とともに開催したいと考え、「こころのバリアフリー市民のつどいin小牧実行委員会」を組織して、この集会を実施しました。

この集会で集まった仲間たちが、こころのバリアフリーへの思いを継続したいという気持ちを抱いて、２００８年４月、ここばりこまきがスタートしました。

２００８年度

２００８年１２月７日（日）「しょうがいのある人の喜怒哀楽」

愛知県心のバリアフリー推進事業　こころのバリアフリー市民のつどい in 小牧

しょうがいのある人の

喜怒哀楽

第１部　谷口明広氏講演会

講師プロフィール
1956年、京都市生まれ。生後間もなく脳性マヒとなり、四肢および体幹機能障害で車いすを使用。堺養護学校、桃山学院大学を経て同志社大学大学院へ進む。同大学院在学中、アメリカに留学。自立生活概念やアテンダント制度を学ぶ。2004年度から愛知淑徳大学医療福祉学部福祉貢献学科教授に就任。教育者として、実践者として、幅広く活躍中。

第２部　シンポジウム

シンポジスト　・身体しょうがいのある方
・知的しょうがいのある方
・精神しょうがいのある方

コーディネーター　谷口明広氏

入場無料

どなたでもお気軽にご参加ください！！

２００８年１２月７日（日）
午後１時３０分から４時まで（午後１時開場）

ふれあいセンター大会議室
小牧市小牧五丁目（市役所の東100m）
※駐車場が狭いので、できるだけ公共交通機関で御来場ください。
なお、車で御来場の場合で駐車場満車の際は、市役所駐車場をご利用ください。

要約筆記　手話通訳　あります

フォローアップ学習会（いずれも２時から４時まで）
シンポジストの方に、もっと詳しくお話をうかがう会を開きます。ぜひ、引き続き御参加ください。
① １２月２１日（日）身体しょうがいのある方のお話　公民館（市民会館南）４階視聴覚室
② １月１８日（日）知的しょうがいのある方のお話　味岡市民センター２階視聴覚室
③ ２月　８日（日）精神しょうがいのある方のお話　東部市民センター２階視聴覚室

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇　主催　愛知県　事業受託団体　ここばりこまき◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇
後援　小牧市　小牧市教育委員会　（社福）小牧市社会福祉協議会
（社）小牧市青年会議所　（特）こまき市民活動ネットワーク

この事業は、愛知県が実施する「心のバリアフリー推進事業」のひとつとして、ここばりこまき（こころのバリアフリーをすすめる会こまき）が事業委託を受け、企画運営するものです。
お問い合わせ先．メール　mail@kokobari-komaki.net　ファックス０２０　４６２２　５７８３

愛知県の心のバリアフリー推進事業の委託を受けて、実施。谷口明広さん（自立生活問題研究所所長、愛知淑徳大学教授。2016年没、享年59歳）の講演と身体しょうがいのある方、知的しょうがいのある方、精神しょうがいのある方によるシンポジウムを開催しました。

当事者からお話を聞くのは、ここばりこまきの当時からのスタンスです。

それぞれの障害のある当事者の方からお話を聞くフォローアップ研修も実施し、初年度の取組として意欲的でした。

「こころのバリアフリーＤＶＤ・パンフレット配布事業」（小牧市市民活動助成金（はじめて一歩部門）事業）

ここばりこまきビデオのＤＶＤ（視聴の手引き付）を８３箇所に配布しました。また市内２箇所で上映も行ないました。

このビデオは、障害のある人の暮らしを知りたい、みんなにもみてもらいたいという目的で撮ったビデオで、シナリオもなにもなく、すべて一発撮りでした。「ここばりビデオライブラリー視聴のてびき」も作成しました。

http://kokobari-komaki.net/files/kokobari-video1.pdf　で、いまも読んでいただくことができます。

第１話「盲導犬と歩く」

小牧市でたった１頭の盲導犬の利用者である玉置さんが盲導犬とともに散歩される様子を取材。盲導犬とともに喫茶店に入れるようになるには、市民に理解を求める運動が必要でした。

第２話「ミュージカルへの挑戦」

ミュージカルに挑戦するダウン症の女性、中山さんの姿とその先輩の交流を取材しました。ミュージカルを通して成長する中山さんとそれを見守ってきた仲間たちの思いが伝わります。

第３話「やりたいこと模索中」

脳性マヒのある青年、吉金さんががいろいろなことに挑戦しながら、自分らしさを探している様子を取材しました。

第４話「ケアホームそよ風と虹の家」

すずかけのケアホームで暮らす仲間たちを取材しました。親から離れて暮らす当事者の方の思いが伝わってきました。

２００９年2月7日（土）　「篠岡地区のボランティアのつどい」で上映

約１７０人ほどの方を前に「盲導犬と歩く」・「やりたいこと模索中」の２本のビデオを上映しました。「やりたいこと模索中」は、脳性マヒのある吉金さんの暮らしぶりを取材したもの。いろいろ迷いながら自分らしい暮らしを探していく様子が上映されました。

交流会では、ビデオの感想も話し合われ、ボランティアのみなさんには、吉金さんの当事者としての思いを聞いたことはとっても刺激的だったようだと、当時の記録にあります。

２００９年2月２１日（土）応時中学校ジュニア奉仕団の「３年生を送る会」で上映

上映のあと、吉金さん本人との交流会。

また、バルーンで、ここばりこまきのマスコットキャラクターである「ここばりちゃん」をつくってもらいました。

マスコットキャラクターの「ここばりちゃん」

２００９年度

◆平成21年度愛知県こころのバリアフリー推進事業

ここばり探検隊　中学生 高校生対象

参加者募集！！

～こころの窓をひらこう～

あなたは、しょうがいのある人のこと、どれぐらい知っていますか？

タイトル	日時	内容	募集人数
第１回 車イスを利用している方と お買い物にでかけよう	１１月１日（日） １３時～１６時	市内の大型ショッピングセンターでお買い物をしたあと、当事者の方のお話を聞けます。 ※　参加費　無料	３名
第２回 バリアフリーを見つけよう	１１月２３日（月） １３時～１６時	車イスを利用している方と巡回バスに乗って、バリアフリーの取り組みをしている施設を見学します。 ※　参加費　無料	３名
第３回 耳の不自由な方の お話を聞こう	１２月６日（日） １０時～１２時	日常生活のいろいろな場面で、どのようなことに困ったり、そのためにどのような工夫をしているかなどのお話を聞きます。 場所：１０時　ふれあいセンター ２階 視聴覚室 ※　参加費　無料	３名
講演会「ここばり探検隊～こころの窓をひらこう～」 第一部　ここばり探検隊活動報告 第二部　講演会「当事者の思いを聞くということ」 講師　三田優子さん	２月１４日（日） １３時３０分 ～１６時	ここばり探検隊に参加して感じたことなどを、第一部のここばり探検隊活動報告の中で発表しましょう！ ※　参加費　無料	

■ 主催　愛知県
■ 事業団体　ここばりこまき（こころのバリアフリーをすすめる会こまき）

裏面も見てね！

昨年度に引き続き、愛知県こころのバリアフリー推進事業を受託。「ここばり探検隊～こころの窓をひらこう～」と題し、中高校生とともにまちのなかのバリアフリーを探索するという企画でした。

探検隊の模様は、ビデオにおさめ、講演会の第一部で、ここばりビデオ第２集「ここばり探検隊～こころの窓をひらこう～」として上映し、好評価を得ました。このビデオは、このイベントの後も、地域の集会で上映させていただきました。

準備編　名古屋港水族館へ行こう

日時：１０月１１日（日）９時～１６時

小牧駅から電車で名古屋港水族館に行きました。

名鉄小牧駅から名古屋市の市営地下鉄に乗り換えるところや水族館の見学コースなど、バリアフリーの現状がどうなっているか、みんなででかけてみました。

第１回　車イスを利用している方とお買い物にでかけよう

日時：１１月１日（日）１３時～１６時

内容：ショッピングセンター（ジャスコ小牧店）に車イスの人といっしょにいき、バリアフリーの状況を確認しました。

ジャスコ小牧店では、ユニバーサル仕様の試着室がありました。

第２回　バリアフリーをみつけよう

日時：１１月２９日（日）

内容：中高校生といっしょに、南部コミュニティセンター（ふらっとみなみ）を探検。帰りには、コミュニティバスに車イスで乗ってみるなどの試みもしました。

第３回　耳の不自由な方のお話を聞こう

日時：１２月６日（日）１０時～１２時

内容：講師に塚本萬喜子さんを迎え、耳の不自由な方にとってどんな場面で困られるかなど、当事者から伺わなくては、気づけないことをお話いただきました。車の事故での差別的な対応の話、美術館でいっしょに観ましょうと接してくれた女性の話など今も覚えています。

場所：ふれあいセンター２階 視聴覚室

講演会「ここばり探検隊～こころの窓をひらこう～」

第一部 ここばり探検隊活動報告

ここばりばり探検隊の活動報告は、ビデオ第２集「ここばり探検隊～こころの窓をひらこう～」として上映しました。

第二部 講演会「当事者の思いを聞くということ」

講師 三田優子さん（大阪府立大学）

日時：２月１４日（日）１３時３０分～１６時

三田優子さんの講演「当事者の思いを聞くということ」では、当時まだまだ「主人公である当事者の思いを聴く」ということに多くの人が慣れていなかったため、とても衝撃をもって受けとめられました。

当事者の話を聴くということは、ここばりこまきの大切としているスタンスになっています。

スクリーンを２面で使い、右側には、手話通訳の様子を映し出す工夫をしてみました。

２０１０年度

２０１０年４月１９日味岡中学校ジュニア奉仕団の集会

篠岡中ジュニア奉仕団の交流会で、1 時間時間をもらって、ここばりビデオを観てもらいました。お話のあとは、風船でつくられた「ここばりちゃん」に、みんなが思い思いの顔を描いてしあげました。

２０１０年5月３０日　バラ・アジサイまつりに参加しました。

市民四季の森で開催の「バラ・アジサイまつり」の市民活動交流広場に、シュロのバッタ作りと紙ヒコーキづくりで出店しました。シュロのバッタをマスターするため、スタッフは連日特訓！その甲斐あって当日はたくさんの方に作り方を教えることができ、喜んでいただきました。

１０月１７日には、市民まつり小牧山会場「げんき村」にも参加しました。バルーンの「ここばりちゃん作り」とぬり絵コーナーを設けたブースで出店し、活動のＰＲをしました。バルーンのここばりちゃんは大人気で用意したバルーンは完売。たくさんのカラフルなここばりちゃんが場内で見られました。

２０１０年６月６日「ぼくはうみがみたくなりました」上映会

「ぼくはうみをみたくなりました」（企画･原作･脚本 山下 久仁明）の上映会を行いました。自閉症の青年と看護学生の女性との交流を通して、自閉症というしょうがいや自閉症のひととそのまわりの人々を描いた映画です。

午前・午後の２回上映で、３８２人の方々に観ていただきました。とてもたくさんの方に見ていただいたことで、私たちの活動に手応えも感じ、元気をもらった上映会でした。

２０１０年６月１２日味岡中学校ジュニア奉仕団の集会

味岡中学校ジュニア奉仕団の集会で「こころのバリアフリーってなぁに？」というテーマでここばりビデオを上映しました。

新年度の最初の会だったこともあり世話人さんや、地域の民生委員さん方も参加され、生徒さんを含めた１４０名近い方にビデオを観ていただきました。また、ここばりこまきのスタッフからしょうがいについて短いお話もしてもらいました。

後半のバルーンアート体験では、プーさんを作ってもらいました。教えあったり、手伝いあったりと、ほほえましい姿があちこちで見られ、完成した可愛いプーさんを手に、たくさんの笑顔がこぼれました。

２０１１年１月２３日（日）青野浩美バリアフリーコンサート

しょうがいのある人もない人もいっしょにコンサートを楽しみましょう

青野浩美
バリアフリーコンサート

2011.1.23(日) 午後1時30分開演（1時開場）
小牧市東部市民センター講堂（定員500人）
入場無料
※先着順ですが、しょうがいのある人には、優先席がありますので、ゆっくり来てください。

青野浩美さん（26歳）は、体育教師の父、音楽教師の母の間に生まれました。母親の影響もあって声楽家を目指していました。しかし、大学卒業を間近に控えた2006年の12月。突然全身が動かなくなり、倒れたのです。

原因不明の病気でした。リハビリを続け、車イスで生活できるようになりましたが、退院した直後、今度は昼夜を問わない無呼吸の発作に襲われます。医者からは、気管切開し人工呼吸器をつけないといのちが危ないといわれましたが、気管切開をすると声が出なくなると、半年悩んだ末に手術をしました。

特別なチューブを使うと声が出ました。声が出るなら歌えないか、医師に尋ねると「前例がない」との答え。前例がないなら、自分が前例になればいい、と青野さんは再び声楽家の道を歩きはじめました。「障害者になって初めて分かることがある」、という青野さんの歌とお話をぜひ楽しんでください。

当日は、バリアフリーコンサートです。しょうがいのある人も小さなお子さんも遠慮なく参加してください。みんなでコンサートを楽しみましょう。

主催（お問い合わせ先）　ここばりこまき
後援　小牧市　小牧市教育委員会　（社福）小牧市社会福祉協議会
（特）こまき市民活動ネットワーク
連絡先　Eメール　mail@kokobari-komaki.net
ファックス　020−4622−5783
サイト http://kokobari-komaki.net

青野浩美さんは、声楽家を目指していましたが大学卒業直前に、原因不明の病気で気管切開をすることになったが、あきらめず、前例がないなら私が前例となる、とリハビリを続けられ、声楽家として活躍されている方でした。

医療ケアを必要とする障害のある人の話も聞けました。

障害のある方もたくさん聴きにきていただいて、素敵なバリアフリーコンサートになりました。

２０１１年度

モリコロ基金助成金事業「こころのバリアフリーを進める DVD 作製・配布事業」

事業内容　①「ここばりビデオ」を制作し、②ここばりビデオ上映とバリアフリーコンサートを開催、③「ここばりビデオ」DVD 配布しました。

ブログ「ここばりこまきのやさしいまち」で当事者及び家族の意見を収集

しょうがいのある人・ご家族へのおねがい

ここばりこまきは、しょうがいのある人のことをできるだけ、おおくのひとに知ってもらって、しょうがいのある人へのこころの健康とりのぞくことをめざして活動しています。

身近にしょうがいのある人がいないひとから、しょうがいのある人やその家族にどう接したらいいかわからない、ということを聞きます。

じっさい、日ごろからしょうがいのある人とおつきあいがない人にとっては、知らないことやわからないことがいっぱいで、知っていたらそれぐらいのことは手伝いができたのに、とか、知っていたらそんなことはしなかったのに、ということもあると思います。

そこで、ここばりこまきでは、しょうがいのある人やその家族から、日常生活の中でまわりの人の心づかいでうれしかった経験や逆につらい思いをした経験を教えていただいて、それを市民のみなさんに伝えたいと考えました。

ぜひ、しょうがいのある人やご家族のみなさんの経験されたことを教えてください。
たとえば、こんなふうに。

【指性まひ（知的重度、身体全介助）のこどものお母さんから】
○コンビニの入口などで、自動ドアでない場合、車いすを押しながら扉を開けたり、開けた状態をキープするのが難しいので、店員さんや、前のお客さんが扉を開けてキープしててくださると、とっても助かります。

【自閉症のこどものお母さんから】
○いっしょに出かけるのが待ちきれず息子が一人で出発してしまい、あちこち探回しても姿が見えず、どの方向を探そうかと思っていると、近所の同じ小学校に通っている１年生の子が息子が歩いていくのを見かけていて、あっちにいったよと教えてくれました。その方向を探すと自宅から１００メートルくらいのところを歩いていました。息子のことを知っていてくれて、見守ってくれる地域のひとたちがいてよかったと思いました。

【アスペルガー症候群（軽度知的障害）の青年のお父さんから】
○自分が困った状況に陥った時（例えば、電車のチケットを買う場合に、いくらのチケットを買ったらいいのかなど）に、自分から周りの方にＳＯＳを出すことができずに、困まってしまうこともあります。周りの皆さんから一言「どうしたの？」と、声をかけて頂けると助かります。

ここばりこまき　連絡先　mail@kokobari-komaki.net
ホームページ　http://kokobari-komaki.net

つら面を見てください

日頃からしょうがいのある人と関わりのすくない方は、いざ、しょうがいのある人といっしょになったときにどういう対応をすればいいかわからない、というのが正直なところではないでしょうか。

しょうがいのある人や家族の方から、こんな対応をしてもらえるとうれしい、こんなときに困ったという事例を集め、「ここばりこまきのやさしいまち」という事例集にしました。

また、その内容は、ホームページにも記載されています。
http://blog2.kokobari-komaki.net/

ここばりこまきのやさしいまち
バリアフリーコンサート
2011年9月18日(日)開演13:30(開場13:00)
小牧市味岡市民センター講堂／入場無料

ここばりこまきでは、今年度も誰もが気軽に音楽を楽しむことができるバリアフリーコンサートを企画しました！しょうがいのある人もお子さんも、気兼ねのいらないコンサートにぜひ来てください。

神戸のシンガーソングライター
石田裕之　小牧に初登場！！

「上を向いて歩こう」「世界に一つだけの花」
など、みんなのすきな歌もいっしょに歌えるよ。

「ここばりこまきのやさしいまち」（ここばりビデオ第３集）を発表します。

しょうがいのある人と日ごろおつきあいのない方は、しょうがいのある人と出会ったときにどう関わったらいいのかわからないという方も多いと思います。

ここばりこまきでは、しょうがいのある人やその家族の思いを集めました。ちょっとしたこころづかいがとってもうれしい・・・。

あなたのやさしさを伝える方法を提案します。

ぜひご覧ください。

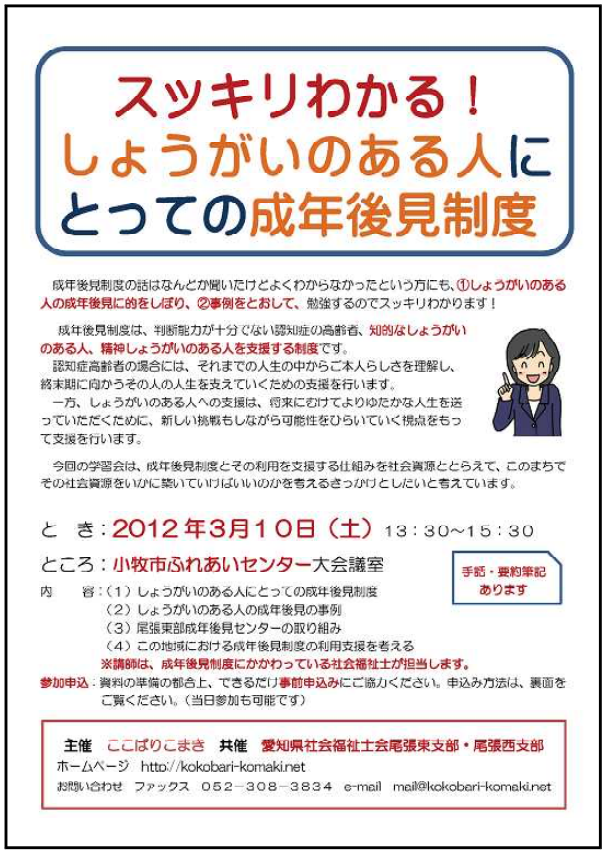
お問い合わせ　ここばりこまき
E-mail　mail@kokobari-komaki.net
fax 052-308-3834

本事業は、あいちモリコロ基金の助成金を受けて実施しています。

２０１１年９月１８日（日）ここばりこまきのやさしいまち　バリアフリーコンサート

石田裕之さん、とても素敵な歌声とやさしい歌で、すっかりファンになりました。

２０１２年３月１０日　「スッキリわかる！しょうがいのある人にとっての成年後見制度」



スッキリわかる！
しょうがいのある人に
とっての成年後見制度

成年後見制度の話はなんどか聞いたけどよくわからなかったという方にも、①しょうがいのある人の成年後見に的をしぼり、②事例をとおして、勉強するのでスッキリわかります！

成年後見制度は、判断能力が十分でない認知症の高齢者、知的なしょうがいのある人、精神しょうがいのある人を支援する制度です。
認知症高齢者の場合には、それまでの人生の中からご本人らしさを理解し、終末期に向かうその人の人生を支えていくための支援を行います。
一方、しょうがいのある人への支援は、将来にむけてよりゆたかな人生を送っていただくために、新しい挑戦もしながら可能性をひらいていく視点をもって支援を行います。

今回の学習会は、成年後見制度とその利用を支援する仕組みを社会資源ととらえて、このまちでその社会資源をいかに築いていけばいいのかを考えるきっかけとしたいと考えています。

と　き：2012年3月10日（土）13：30～15：30
ところ：小牧市ふれあいセンター大会議室
手話・要約筆記あります
内　容：（1）しょうがいのある人にとっての成年後見制度
（2）しょうがいのある人の成年後見の事例
（3）尾張東部成年後見センターの取り組み
（4）この地域における成年後見制度の利用支援を考える
※講師は、成年後見制度にかかわっている社会福祉士が担当します。
参加申込：資料の準備の都合上、できるだけ事前申込みにご協力ください。申込み方法は、裏面をご覧ください。（当日参加も可能です）

主催　ここばりこまき　共催　愛知県社会福祉士会尾張東支部・尾張西支部
ホームページ　http://kokobari-komaki.net
お問い合わせ　ファックス　052－308－3834　e-mail　mail@kokobari-komaki.net

（愛知県社会福祉士会尾張東支部・尾張西支部の協力をえて実施しました。）

この研修会は、振り返れば、のちの尾張北部権利擁護支援センターの設置につながる研修会でした。チラシには、次のように書かれています。

「成年後見制度の話はなんどか聞いたけどよくわからなかったという方にも、①しょうがいのある人の成年後見に的をしぼり、②事例をとおして、勉強するのでスッキリわかります！
成年後見制度は、判断能力が十分でない認知症の高齢者、知的なしょうがいのある人、精神しょうがいのある人を支援する制度です。
認知症高齢者の場合には、それまでの人生の中からご本人らしさを理解し、終末期に向かうその人の人生を支えていくための支援を行います。
一方、しょうがいのある人への支援は、将来にむけてよりゆたかな人生を送っていただくために、新しい挑戦もしながら可能性をひらいていく視点をもって支援を行います。
今回の学習会は、成年後見制度とその利用を支援する仕組みを社会資源ととらえて、このまちでその社会資源をいかに築いていけばいいのかを考えるきっかけとしたいと考えています。」

当日は、参加者１２０人で盛況でした。
２０１１年１０月に発足したばかりの尾張東部成年後見センター職員の住田敦子さん（現在はセンター長）に、話をしてもらいました。
このあと、住田さんには、尾張北部権利擁護支援センターができるまで、なんども講師をしていただくなど、支援していただきました。

２０１２年度

２０１２年８月１８日（土）「普通に生きる」自主上映会

「普通に生きる～自立をめざして～」（製作･著作･配給：マザーバード／ 2011 年度作品）は、静岡県富士市にある 生活介護事業所でら～とを描いたドキュメンタリー映画。映画では、『どんなに重い障害を持っていても、本人もその家族も普通に生きてゆける社会をめざす』という理念のもと、親たちの努力で、重症心身障害児者のための通所施設がゼロからできていく様子を描いた作品。

行政に要求し受益者となるだけでなく、自分たちが担い手となっていくという映画でした。

私たちが開催する前に、6 月 10 日（日）に岐阜県多治見市総合福祉センターでの上映会に下見に行き、参加者の熱気を感じてかえってきたことも思い出されます。

いまなお、全国では上映会が続いているようです。

映画「普通に生きる」のホームページ
http://www.motherbird.net/~ikiru/

２０１３年度

２０１３年７月１５日（月・祝）「ぼくはうみがみたくなりました」上映会

「ぼくはうみがみたくなりました」の上映権付きのＤＶＤを購入できたので、ふたたび、上映会を開催しました。

少人数を対象とした上映会として引き続き、３会場で開催しました。

①１１月２４日（日）１３時～１６時３０分
　市公民館視聴覚室
②１２月　１日（日）１３時～１６時３０分
　北里市民センター視聴覚室
③１２月　８日（日）１３時～１６時３０分
　東部市民センター視聴覚室

２０１３年９月８日市民活動祭に参加

市民活動祭に、パネル展示で参加しました。

私たちの活動を紹介するとともに、クイズ形式で、小牧市内の障害者手帳を持っている人の割合（答え　２５人に１人）などを問いかけ、障害のある人について関心をもっていただけるよう働きかけました。

小牧市市民提案型協働事業（きらめき）応募し採択されました。

２５小協第２５６号
平成２５年９月１０日

ここばりこまき
代表　山中　和彦　様

小牧市長　山下　史守朗

協働提案事業の選考結果について（通知）

残暑の候　ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたびは、協働事業をご提案いただき、誠にありがとうございます。

ご提案いただきました協働事業について厳正なる選考をおこなった結果、別添のとおりとなりましたので、お知らせいたします。

今回ご提案されたことに深く感謝するとともに、今後も引き続き市政発展にご尽力賜りますようお願い申し上げます。

＝連絡先＝
〒485－8650　小牧市堀の内３－１
小牧市役所市長公室協働推進課地域協働係
電話 0568－76－1149／fax0568－75－5714
E-Mail　kyodo@city.komaki.lg.jp
担当：北川

≪選考結果≫

No.3	提案事業名：権利擁護支援センターの設置検討事業
提案団体名	「ここばりこまき」
事業概要	障がい者や高齢者の権利擁護を支援するセンターを設置する動きが全国に広がっている。当事者、支援者、行政が共に権利擁護の必要性を理解し、研修会や意識調査などを実施する設置委員会を設け、小牧市にふさわしい権利擁護支援センターを検討する。

協働のまちづくり実務者会議

各項目の点数及び得点率	必要性	公益性	協働性	効果性	展望性	適正性	実行性	合計
	58/100 58%	49.5/75 66%	29/50 58%	28/50 56%	14.5/25 58%	13.5/25 54%	13.5/25 54%	206/350 58.8%

コメント
- センターの設置は、これからさらに増えるであろう需要に対し大変有効と思われる。
- 団体の意欲は十分理解できるが、市の施策として計画的に進めていく段階であり、設置が早まるという理由で先行して協働事業として実施すべきではないと考える。
- 市が主体となって責任を持って取り組む事業である。
- 他市では社会福祉協議会が行っている事例が多く、本市でも特定の団体ではなく、より公共性の強い社会福祉協議会との協働または委託を検討すべきではないか。
- 協働事業として実施すべきであるか、慎重な検討が必要だと考える。

小牧市市民活動促進委員会

各項目の点数及び得点率	必要性	公益性	協働性	効果性	展望性	適正性	実行性	合計
	94/100 94%	69/75 92%	45/50 90%	44/50 88%	21/25 84%	17/25 68%	20/25 80%	310/350 88.5%

コメント
- 設置検討は進めていただきたいが、事業詳細や役割分担については行政と調整をし、よりよい協働事業を実施してもらいたい。

一次選考結果（協働のまちづくり実務者会議 ＋ 市民活動促進委員会）

各項目の点数及び得点率	必要性	公益性	協働性	効果性	展望性	適正性	実行性	合計
	152/200 76%	118.5/150 79%	74/100 74%	72/100 72%	35.5/50 71%	30.5/50 61%	33.5/50 67%	516/700 73.7%

二次選考結果（市政戦略本部）

コメント	センターの設置を前提として検討を進めるのではなく、権利擁護支援のあり方について、まずは現在の取組みの検証や、その機能の強化などを含めて広く検討することが必要です。担当課は実施内容の詳細について十分に提案団体と調整すること。
選考結果	採択
協働担当課	福祉課、長寿介護課

これまで、ここばりビデオ制作、自主映画上映会、バリアフリーコンサートなどを通じて、市民のみなさまへの働きかけをしてきました。たくさんの方に来場いただき、アンケートなどでも、こころのバリアフリーに共感する意見なども拝見し、元気づけられてきました。

２０１２年度の映画「生きる」の自主上映会を実施した自分たちで社会資源を作るシーンをみた影響もあったかもしれません。こころのバリアフリーをすすめる活動の一方で、尾張東部成年後見センターのような具体的な社会資源がこの地域にも欲しい、目に見えるそのような社会資源をつくる活動が必要ではないかとの思いがでてきました。

２０１２年３月に実施した「スッキリわかる！しょうがいのある人にとっての成年後見制度」を開催し、市民のみなさんも、尾張東部成年後見センターのような社会資源を求めておられることがわかりましたので、小牧市市民提案型協働事業（きらめき）に、設置に向けた検討をする事業を提案し応募しました。

２０１４年度

平成２６年度小牧市市民提案型協働事業「権利擁護支援のあり方検討事業」

応募時点では、「権利擁護支援センター設置検討事業」でしたが、市との協議で、「小牧市権利擁護支援のあり方検討事業」となりました。

検討は、行政的な手法ですが、小牧市権利擁護支援のあり方検討委員会を組織して、アンケートや関係者からの意見聴取などにより現状把握し、課題の整理、あるべき姿の検討など、５回の検討会を通じて、「小牧市権利擁護支援のあり方に関する報告書」をとりまとめました。

ここばりこまきらしいのは、この検討委員会と並行して、支援者向けの「福祉職員のための成年後見制度基礎研修」、当事者・保護者向けの「一問一答！よくわかる成年後見制度」、市民の皆さん向けの「認知症の人もしょうがいのある人も暮らしやすいまちこまきをつくろう」の３つの研修会・講演会を開催したことです。

いずれも多数の参加をいただき、権利擁護支援センターの設置検討に後押しをしてもらえたと考えています。

福祉職員のための
成年後見制度 基礎研修

成年後見制度は、認知症や精神障害、知的障害のため判断能力が十分でない方の生活全般をしっかりと支える重要な社会の仕組みのひとつです。
成年後見制度は、民法の制度であるためすこし難しいところもありますが、認知症の方や障害のある人を支える仕組みとして成年後見制度の基礎的な知識とその活用方法については、いまや福祉職員にとって必須科目となっています。
地域包括支援センター職員、障害者相談支援事業所職員、ケアマネジャーの皆さん、直接処遇に携わるみなさんも、ぜひ受講してください。

日にち　平成２６年８月１６日（土）９時受付

会　場　小牧市役所東庁舎５階大会議室

申込方法　裏面参照（定員５０名、先着順）

時間	内容	担当
９：３０ ～１１：００	成年後見制度の基礎知識	司法書士 中西健吾さん
１１：１０ ～１２：３０	成年後見制度と行政の役割 ・市長申立、成年後見利用支援事業、措置制度の活用などについて学びます。	ここばりこまき 社会福祉士　山中知彦
１３：３０ ～１６：００	事例で学ぶ成年後見制度の活用方法 ・あなたなら、このケースにどう対応しますか？・・・事例をもとに、成年後見制度を利用するにあたっての考え方を学びます。	尾張東部成年後見センター センター長　住田敦子さん

この研修会は、小牧市の市民提案型協働事業として、
「ここばりこまき」が市の委託を受けて実施するものです。
お問合せ先
ここばりこまき　mail@kokobari-komaki.net　Fax 052-308-3834

平成26年度小牧市市民提案型協働事業「権利擁護支援のあり方検討事業」

一問一答！
よくわかる成年後見制度

自分が認知症になったときも心配だが、障害のある息子の親亡き後も心配だなぁ・・・成年後見制度の勉強をしてみるか。

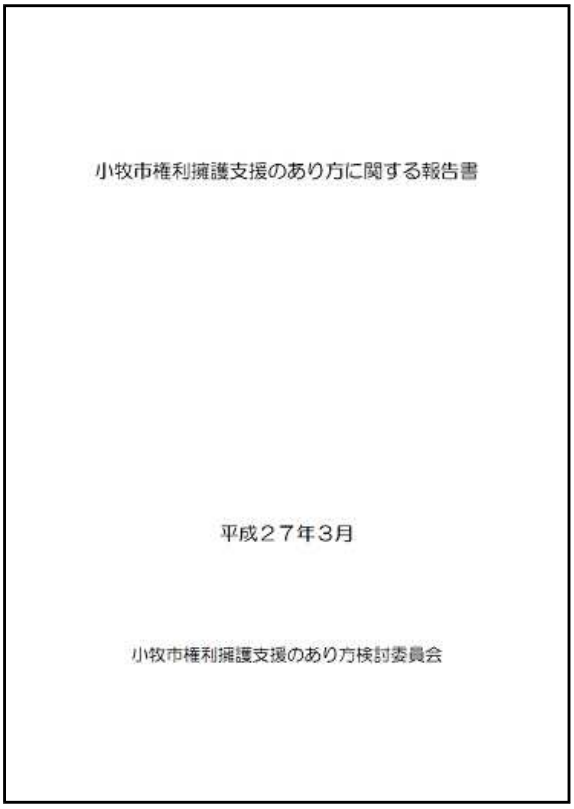
入場無料
手話通訳・要約筆記あり

日程　2014年 10月26日（日）
時間　13:30～16:00（開場13:00）
会場　小牧市ふれあいセンター大会議室
講師　尾張東部成年後見センター長 住田敦子さん

＜主な内容＞
・成年後見制度の基礎知識　・具体的な手続き　・費用
・後見人は何をしてくれるのか　・後見センターとは

お問い合わせ
TEL 0568－76－1193（地域福祉課）または090－1760－9032（ひらて）
Fax 052－308－3834
メール mail@kokobari-komaki.net

主　催　小牧市
企画運営　ここばりこまき

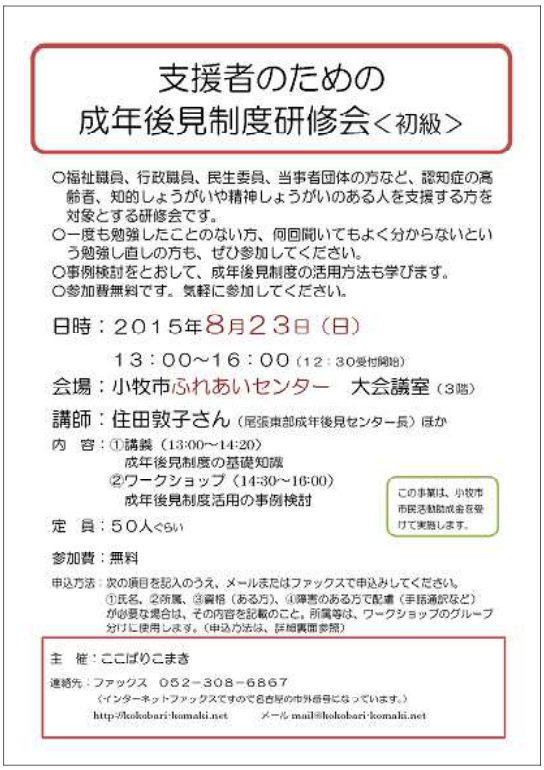


最終的に、報告書では、権利擁護支援センターを早期に設置することが求められました。
詳しい経緯や報告書は、http://kokobari-komaki.net/wp4/?page_id=27 にあります。

２０１８年４月、尾張北部権利擁護支援センターが、小牧市、岩倉市、大口町、扶桑町の４市町の共同で設置されました。

２０１５年度

２０１５年８月２３日（日）支援者のための成年後見制度研修会＜初級＞



支援者のための
成年後見制度研修会＜初級＞

○福祉職員、行政職員、民生委員、当事者団体の方など、認知症の高齢者、知的しょうがいや精神しょうがいのある人を支援する方を対象とする研修会です。
○一度も勉強したことのない方、何回聞いてもよく分からないという勉強し直しの方も、ぜひ参加してください。
○事例検討をとおして、成年後見制度の活用方法も学びます。
○参加費無料です。気軽に参加してください。

日時：２０１５年８月２３日（日）
１３：００～１６：００（１２：３０受付開始）
会場：小牧市ふれあいセンター　大会議室（３階）
講師：住田敦子さん（尾張東部成年後見センター長）ほか
内　容：①講義（13:00～14:20）
成年後見制度の基礎知識
②ワークショップ（14:30～16:00）
成年後見制度活用の事例検討
定　員：５０人ぐらい
参加費：無料
申込方法：次の項目を記入のうえ、メールまたはファックスで申込みしてください。
①氏名、②所属、③資格（ある方）、④障害のある方で配慮（手話通訳など）が必要な場合は、その内容を記載のこと。所属等は、ワークショップのグループ分けに使用します。（申込方法は、詳細裏面参照）

この事業は、小牧市市民活動助成金を受けて実施します。

主　催：ここばりこまき
連絡先：ファックス　０５２－３０８－６８６７
（インターネットファックスですので名古屋の市外番号になっています。）
http://kokobari-komaki.net　　メール mail@kokobari-komaki.net

成年後見制度を中心に権利擁護支援を担うセンターの設置の方向となりましたが、設置の時期は明確にされていませんでした。
センターが設置されるまでのあいだは、ここばりこまきが、引き続き研修を担うとの思いで、この年も支援者のための成年後見制度研修会を開催しました。

２０１５年１１月１日（日）「しょうがいのある人と高齢者のためのなんでも相談会」

ここばりこまきの権利擁護セミナー

しょうがいのある人と高齢者のための
なんでも相談会（公開版）

福祉だけでは解決しないこと、法律だけでは解決しないことがあります。
法律と福祉の連携で、その人らしいゆたかな暮らしを支えていきます。

2015年11月1日（日）午後1時半～4時まで
（開場　午後1時）
小牧市味岡市民センター講堂（定員300人）
（入場無料・手話通訳・要約筆記あり）

相談員（講師）は、あいち権利擁護ネットワークのみなさんです。

司法書士　松尾健史さん　　弁護士　髙森裕司さん　　社会福祉士　住田敦子さん

この講演会は、小牧市市民活動助成金の助成を受けています。

主催　ここばりこまき　http://kokobari-komaki.net
協力　あいち権利擁護ネットワーク　http://aichi-kenyogonet.lolipop.jp

あいち権利擁護ネットワークは、弁護士、司法書士、社会福祉士をはじめさまざまな専門職がつながっている専門職のネットワークです。２か月に一度「なんでも相談会」を開催しています。
なんでも相談会の「公開版」として、あいち権利擁護ネットワークのみなさんに講師になっていただき、３つのテーマで話しあいました。
テーマ１　「親亡き後」について考える
テーマ２　経済的虐待について考える
テーマ３　権利擁護支援センターについて考える

イベントでのやりとりをまとめた報告書が、あります。→
http://kokobari-komaki.net/wp4/?p=217

２０１６年１月９日（土）ここばりこまき上映会「みんなの学校」

ここばりこまき上映会

みんなの学校

みんなが観やすい 字幕版 上映です。

2016年 1月9日（土）午後1時上映開始

小牧市東部市民センター講堂（定員５００人）

参加費１，０００円（当日精算）　（中学生以下、しょうがいのある人無料）

※参加申込は、氏名・人数を記載の上、メール又はファックスで。
当日、正午からチケット交換します。１２時３０分入場開始。

すべての子どもに居場所がある学校をつくりたい

大空小学校がめざすのは、「不登校ゼロ」。ここでは、特別支援教育の対象となる発達障害がある子も、自分の気持ちをうまくコントロールできない子も、みんな同じ教室で学びます。ふつうの公立小学校ですが、開校から6年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人もいっしょになって、誰もが通い続けることができる学校を作りあげてきました。

すぐに教室を飛び出してしまう子も、つい友達に暴力をふるってしまう子も、みんなで見守ります。あるとき、「あの子が行くなら大空には行きたくない」と言される子が入学しました。「じゃあ、そんな子はどこへ行くの？そんな子が安心して来られるのが地域の学校のはず」と木村泰子校長。やがて彼は、この学び合で居場所をみつけ、春には卒業式を迎えます。いまでは、他の学校へ通えなくなった子が次々と大空小学校に転校してくるようになりました。

（C）関西テレビ放送

上映後、岡崎勝さん（現在 名古屋市小学校教員（非常勤））との意見交換会があります。

15:00～16：00　手話通訳・要約筆記あり。

申込専用メールアドレス

主催：ここばりこまき　20160109@kokobari-komaki.net / e-fax 052-308-6867

後援：小牧市　小牧市教育委員会　社会福祉法人小牧市社会福祉協議会　特定非営利活動法人こまき市民活動ネットワーク

２０１２年の「普通に生きる」以来の大がかりな上映会を開催しました。

１年ぐらい前に公開され、各地で上映会が進められていました。

大阪の大空小学校は、普通の公立小学校ですが、特別支援学級のこどももみんな同じ教室で学ぶいわば共生型の運営がなされていました。こどもたちも障害のあるこどもたちといっしょにいることで学び、教師も学んでいきます。そして、地域のみなさんもこの学校、この学校のこどもを支えます。

上映後に、岡崎勝さんとの意見交換会も開催しました。「普通に生きる」上映会のときも、鑑賞後に意見交換の時間を設けましたが、いろいろな意見、感想を聞くことで、さらに思いを共有し、深めることができると考えて、できるだけこのような時間を設けています。

この映画も、各地で上映会の取組みが続き、２０１７年には、「みんなの学校全国大会」が開催されたぐらいです。

プロモーションビデオなどが観られる公式ホームページがあります。
http://minna-movie.jp/

２０１６年度

かけがえのない
いのちの写真を
集めています。

ここばりこまき

私たち、ここばりこまきは、これまでしょうがいのある人だけでなく、一人ひとりがかけがえのない存在として尊重される共生社会の実現をめざして、こころのバリアフリーを推進する活動をしてきました。今年７月２６日未明、津久井やまゆり園で起きた事件は、しょうがいのある人の存在を否定するものであり到底許すことができません。

私たちは、一人ひとりのいのちが、かけがえのないものとして尊重されなければいけないとの強いメッセージを送りたいと思い、「かけがえのないいのちの写真」をたくさん集めて、映像（スライドショー）にして市民のみなさんにアピールしたいと考えています。

２０１６年１０月１６日（日）、小牧市公民館で開催される福祉展のステージで、発表する時間をいただきました。ぜひ、お手もとにあるしょうがいのある人との大切な写真を、私たちに託してください。

募集の要領を裏面に記しています。ぜひ、御協力ください。お願いします。

ここばりこまき　小牧市光ヶ丘１－１　アクシス光ヶ丘４－４０３
mail@kokobari-komaki.net　Fax　０５２－３０８－６８６７

２０１６年４月、障害者差別解消法が施行されました。

障害者差別解消法は、行政機関や事業所に、障害を理由とした不当な差別の禁止、合理的配慮の提供、環境整備を求めるもので、障害のある人への差別を無くす取り組みを通じて、最終的には、共生社会の実現を目指すものです。

ここばりこまきも、ひとり一人がかけがえのない存在として認められ尊重される社会をつくりたいと考えて活動してきていましたので、この法律の施行を歓迎し、しっかり勉強して活かしていきたいと考えていたところです。

７月２６日、そんな期待を込めた思いに冷や水をかけるような相模原障害者殺傷事件が起こりました。

全国手をつなぐ育成会連合会は、機関誌『手をつなぐ』誌で「障害のあるご家族等との思い出の写真で埋めたい」と写真を募集されました。そのことを参考にして、私たちも、「かけがえのないいのちの写真」を募集し、スライドショーにして、１０月の福祉展で公開しました。

YouTube でも見られるようにしています。ぜひごらんください。

ただし、「限定公開」モードになっていますので、下記の URL からご覧になるか、ここばりこまきのホームページからアクセスしてください。

ここばりこまき「いのちの写真展」
https://youtu.be/TiSydFHBt2s

当事者から学ぶこころのバリアフリー（小牧市市民活動助成金交付事業）

「当事者から学ぶ　こころのバリアフリー」をテーマに、第１回は「ろう者と中途失聴者から学ぶ」、第２回は「統合失調症の人の生きづらさと回復への道について学ぶ」、第３回は「本人活動について学ぶ」、そして、第４回は「障害のある人の声を受けとめて」と４回にわたって開催しました。

いろいろな障害のある人の当事者としての思いを聴くということを大切にしてきました。こころのバリアフリーを進める活動として、当事者の思い、暮らしぶりを知るということがベースになると考えているからです。

第１回は、ここばりこまきの当初の活動から応援してきていただいた塚本萬喜子さんと古木茂代さんに、それぞれお話いただきましたが、聴覚障害者とひとくくりにできないそれぞれの思いやニーズについて学びました。

第２回は、あまり聴く機会のない精神障害のある方のお話でした。学生時代に統合失調症を発症されたおふたりの当事者の方たちから、病をかかえて生きる生きづらさと支援団体とであって回復の道をたどろうとされている様子をうかがうことができた、貴重な機会でした。

第３回は、名古屋手をつなぐ育成会の青年の会のなかまに聴く機会です。講師の３人は、アラウンド６０のみなさんですが、仕事・趣味・恋愛・親亡き後など、人生のさまざまな思いを語っていただきました。「私や仲間の差別体験」も話していただきました。

第４回は、聴覚障害のある人、精神障害のある人、知的障害のある人の当事者のお話を聴いてきて、そのメッセージを受けとめて、誰もが安心して暮らすためにために大切なことは何か、みんなで話しあいました。
パネルトークの壇上にたっていただいたのは、障害者生活支援センターの川崎高子さん、市民活動ネットワークの伊藤かおりさん、市地域福祉課の梅村昌行さんでした。

この事業の報告書があります。ごらんください。
http://kokobari-komaki.net/wp4/?p=320